



# CS通信

北海道余市養護学校しりべし学園分校  
学校運営協議会

令和7年度第3号（通巻12号）

発行：令和8年3月10日

## 令和7年度第3回学校運営協議会を開催しました！！

令和8年2月27日（金）10時45分から、令和7年度第3回学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を開催しました。当日は、9時50分から「卒業生を送る会」が行われ、金石委員、梁田委員は送る会にご参加、ご参観いただきました。第3回学校運営協議会では、委員5名（1名欠席）の出席のもと、①今年度の小・中・高等部の地域との連携の中での取組結果、②令和7年度学校評価について、③令和8年度学校経営計画（案）、グランドデザイン（案）についてご意見等ご協議いただきました。活動した分校部会委員4名の出席。今回は、当日開催された、第35回学習発表会を観覧いただき、その後、感想も含め率直なご意見等をいただきました。

### 金石委員からのご意見

- ・学校評価について、毎年いただいて、つけなければならないと思うが、やはり今までの様式では分からない評価項目になっていたため、どうやって評価して良いのか、どこに〇をつけて良いのかずっと悩んでいた。
- ・今回はこの様式では評価できないということをはっきり伝えた。昨年度までは、今までの様式で無理してつけていたという感じであったが、次回、関係者評価の評価項目を見直すという説明があったのでその点はとても良いと思った。
- ・私たちはずっと子ども達をみることもできないし、先生方をずっと見ていることもできないので次回から評価項目が変更されることは大変ありがたい。

### 藤田委員からのご意見

- ・地域との交流、小中、高等部各20回程度の学習があったとのことですが、それがそのような形で評価されているのか。やっているからという回数だけではなく、必要なものと必要ないと思われる取組の精査について先生方はどうなのか。継続性など、それをどう返しているのかなど、評価だったり相手側からの感想だったりをもっと少し詳細にお聞きしたかった。
- ・学校評価のアンケート、25名中23名というのは少し残念に感じた。先生で2人答えていない人にも答えてもらいたかった。（※後で確認し、2名については会計年度職員であり、教員、事務も含め全員回答していました）
- ・教職員の評価が、そう思う、おおむね思うという回答が多くて、否定的な回答が少なかったことは、学校として目的などが浸透した中で、事務も含めて一緒にやっていたことで今回の結果になっていたのではないかと思う。
- ・もっと青い評価（そう思う）に自信をもって答えられたらもっと良かったのではないかと思います。
- ・保護者評価の方を見ても、やはり、学校に対する感謝の気持ち、よくやってくれているという評価が多かった。先生方の自信にもつながると思うし、良い評価結果だったなと感想ですが思った。



### 梁田委員からのご意見

- ・地域とのつながりという面で、今年度もかなりの回数だったと思うが、1回目の会議でも述べたが、回数的にどうなのかと少し危惧をしているところです。もし今の段階で、これは継続する、またこれはやめるなどの情報があれば聞かせていただきたい。また、次年度、実際に評議員の委員もその場の学習に立ち会って、本当にこれは有意義だなとか、こういう所はもう少し深化させた方がいいのかな・・・など、リアルタイムに見られる機会があればいいと思った。
- ・自分が元教員という所もあり、授業づくりとの絡みという所で見たいところもあり、その準備も含め、1時間半という時間の中できちんと完結、導入から、展開、最後のまとめで相手側の方からの挨拶等も含めて時間どおり終わり、というようなそのあたりもどうなのかという所も少し見てみたいと思った。
- ・次年度の学校経営に関わって、子どもが中心というところはその通りだと思う。また、それ以前に、大人、教師側の専門性が大切であり、そこを知識として蓄えたり経験したりすることは大変大切だと思っている。
- ・そういった意味での専門性と考えると、新しい先生も多いですが、やはり中堅の先生方が手本を見せる授業などをしていかないと、次のその後の先生方につながっていかないのではないかと思う。最近の初任の先生方を見て感じることは、背中を見ないというか、自分のやりたいことをやっていくという人が多いのではないかと感じていた。昔自分たちの頃のように、あの先生に憧れてとか、こんな先生になりたいなとかという時代ではないのかもしれないが、中堅の先生方がいい背中を見せて、教えてあげるといような環境づくりというか、そういう環境をつくってほしいなと思った。

### 中村委員からのご意見

- 学校評価の記載は全文なのか。すごく良い記載で、後ろめたい意見がないんだなと思いつつ読んでいた。
- 次年度の事ですが、いわゆる乗り入れ授業という予定はないのか。町立は小学校と中学校でそれぞれの学校に行き入り授業をやっているが、町立と道立で違うので難しいと思うが、最近グレーな子が増えてきているため、困り感が強くなってきている子もいる、そういった子を分校の教員が、ここをこうしたら良くなるんじゃないかなんかことを乗り入れ授業でできると先生方の指導の面でも大変参考になるのではないかと思います。
- 今町内の学校でそういう子がいる学年があるが、小学校の先生がちょっと分校に来て勉強して、授業のきっかけをつかめると良いのではないかなと思ったので、そういったきっかけを作れないかなと考えました。



### 宮岸委員からのご意見

- 乗り入れという形態は難しいかもしれないが、PT等で授業を見てそれに対するアドバイスや助言をという形は、至極普通に今分校のコーディネーターが行っているように行くのは、要請があれば可能だと考える。
- 難しいと思う点は、実は毎年毎年同じ事に対する要請が来ている現状があること。子どもも変わっているのかもしれないが、専門性の継続を学校としてどうつなげていくのか、10年程前に自分がコーディネーターとしてPTに行っていた時と現状があまりにも変わっていないし、そこが難しい所なのかなとも感じている。
- 行ってアドバイス等をした時、それを学校としてどう蓄えていただけたのかと言うところが大きな全道的な課題でもある。PTの要請は、前年度と同じ数だけ来るが、去年も同じ事を学校に行き入り話し、今年も同じ事を話すことも多い。
- 確実に言えるのは、校長、教頭が助言に入り、学校としてどう特別支援教育をどう進めていったら良いかを考える学校は確実に変わっています。そのあたりの事を管理職がどう受け止めているのか、先生方が困った困ったと言うことを解決するだけでは解決しないと感じていた。
- 地域との交流という面は、コロナで一度閉ざされた時期から解放され、地域との活動がようやくできる状態に回復してきたことも要因にあると思う。今後はこれまでの取組を整理していくことは大切だと思っている。ようやくあの悪夢の時期から解放され、地域の人と一緒に活動できるようになった喜びを感じ、何をやらうかという所でもあるので、今後これまでの学習を整理し、何が必要で、子ども達にとって何が大事なのかを整理していくことが必要かなと感じている。

### 令和7年度後志管内教育実践表彰で分校の場崎史郎教諭が受賞されました

今年度の後志管内教育実践表彰にて、分校コーディネーターの場崎教諭が受賞されました。受賞理由は、本分校だけでなく、後志管内の就学支援、相談支援に多く携わるなど管内の特別支援教育に多岐にわたり活躍されてきたことが評価されての今回の受賞となりました。

3月5日木曜日、分校にて、後志教育局長から表彰状を授与されました。

※受賞理由等の詳細は、北海道通信日刊教育版等に掲載されております。



### 校長より

今回で3回目、今年度最後のCSとなりましたが、今回も様々なご意見ありがとうございました。

いただいた意見の中には、先生方のこれまでの取組を評価していただけたご意見も多数いただきました、本日もいただいたご意見等は、先生方にも伝えていきたいと思っております。先生方の励みにもなると思っています。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【校長 宮岸 尚平】

### 【編集後記】

御意見や御感想等がありましたら、下記アドレスよりメールにてお知らせください。お待ちしております。

今後も、地域と繋がり、学び合う学校をめざしていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【E-mail】

[yoichiyougoshiribeshi-z0@hokkaido-c.ed.jp](mailto:yoichiyougoshiribeshi-z0@hokkaido-c.ed.jp)